

# 考える力を培う教材教具

—第 112 回障害児基礎教育研究会定例会基調講演—

2001 年 5 月 19 日

障害児基礎教育研究所 所長 水口 俊

\*平成 13 年度はじめての障害児基礎教育研究会での水口先生のお話です。

## 概念行動とは

概念行動とは何か。僕がそれを梅津八三先生に質問したら、「それは、自分がやったことが自分でわかることだよ。」とお答えになりました。自分の手が右に行ったか左に行ったか。どう物をなでたか。そういうことがわかって少しずつ概念形成につながるんだということでした。外界を取り入れるのは感覚です。視覚・聴覚・触覚。中でも手の触覚が大きな役割を果たします。だから、「上から下まで」ということがわかっていくというのは、その子が手の使い方が調整できるようになるプロセスです。それに概念（言葉）がのっかっていく。手の運動すら起きない子もいるので、運動をまず呼び起こしていく。運動に方向をも持たせ、位置を出していく。端から端までたどれるようにする。たどったことがわかるように教材を工夫し、手を使うように援助する。それがまとまっていくときに形になって、△や□がわかる。位置が整理され、形ができていく。形ができていくと方向が出てくる。物には形がある。色がある。属性がある。形というのは非常に大事な特性のひとつです。文字も形。文字・数の基礎として形をきちんと学習することが大事です。

## 概念行動は言語行動

梅津八三先生から教わった学習の理論は、言語行動の形成です。この間も ST の人と話をしたが、言葉というのは動作に結びついて学習されるものだということです。上から下に。下から上に。子どもが手を動かす時に、そう声をかける。すると、子どもは自分の感覚と共にそういった概念（言葉）を学習します。上というのは難しい。下がわかりやすい。何故なら、下はこれ以上下がないから。決まっているから。上は決まってないから。初めて子どもが玉ひも（教材）をするとき、数え方を見ると早すぎる、強すぎる、順番にならない。重力に抗して手を使えるようにすることで、上とか下がわかってくる。そういった学習の原則というようなものがあるんです。

言語行動は動作の集合です。「入れる」というのは、玉を入れる。黒い玉を入れる、赤い玉を入れる、青い玉も入れるという集合。入れるという動作は形として残らないから、ただそれだけでは記憶に残らない。だから、教材を使って人とやりとりしながら学習をした時に、それが自分がやったこととして記憶されていく。入れたら出す。いろんなものが出せて初めて「出す」と言うことが動作の集合としてわかる。概念とは抽象化ということ。名詞についても、いろんなコップがあって、それに共通したコップの機能がある。言葉には、言語形成の基本的なことが「動作」が含まれている。そこをふまえてその子に合わせて工夫するんです。

## **生命の尊厳**

僕の基本的な考えは、障害があるとかないとか、重いとか軽いとか、能力の質とか量とかに全く関係がなく、人間には何者も侵すことのできない生命の尊厳があるということ。それに対する畏敬の念です。学習に向かう人たちのひたむきな姿。人間はどうあっても勉強したい、成長したいという強い気持ち。そういった生命の尊厳に対し、常に襟を正していく。襟を正し続け、それを深め広げていく。それが実践の大きな前提です。

学習の大きなねらいは、ひとりひとりの思考力や精神活動を豊かにしながら、人間としての行動のレベルを上げていくということ。力を合わせて相互の障害状況を乗り越えるということ。つまり、教えるときはこちらに障害がないようだが、教えられなくなったらこちらが障害状況。子どもにどうしたらよいか学びながら仮説を立て替える。子どもを先生として教わりながら工夫をしていく。子どもに学ぶ。そういうことをふまえてやっていく。人間は社会的な存在で人間関係で成長していくもの。やりとりの中で何かがわかっていくんです。大事なことは可能性を信じること。信じ続けること。なんとかして可能性を発見するんだという気持ちで工夫し、とにかくやるということ。

可能性を信じて適切な教具を作り、人間らしい興味と新たな行動を呼び起こしていく。そして、達成感とか成就感につなげていく。その喜びを共感していく。それを深めていく。これが僕の出会いの原点にあります。基礎をさがしながら積み重ねていく。創意工夫を楽しんでいく。

まだ明らかにされていない障害児の教育内容を明らかにしていく。やっていけば少しずつわかっていくような気がします。

## **学習は自発と相互交渉で成り立つ**

学習は自発しないと成立しません。「やらせ」は自閉かパニックを引き起こします。自発を支えるのは情緒の安定です。情緒は基本的な欲求です。人と触れ合いたいという集団欲を満たす。知的好奇心を満たす。それを満たすときに情緒が安定する。教材を媒介にして相互交渉することで情緒が安定する。何か発見したときに子供がニヤッと笑う。それを一緒に感じていく。子供はそれで生きている。そして、だんだんと興味や関心が回りに広がっていく。

相互交渉なしには教育は存在しません。子供と自分との相互交渉の中で共感が深まっていく。人間の尊厳に襟を正し、教材教具を使ってコミュニケーションを深めていく。人間行動のレベルを上げる。人間行動ができていくことが概念形成ができるということ。言語行動というのはそういうものです。行動を通して言葉を身につけることが、その人にとっての本当の学習になるんです。